

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立北八下学校  
校長 石井 敬二

中学校区におけるめざす子ども像  
自らを律し自ら学び続ける子

- 令和6年度 重点目標 「児童も先生も学び続け、変わっていく学校づくり」～意識を高めることで行動が変わる。行動を変えることで意識が変わる～
- ・安心・安全で信頼される学校づくり（人権尊重の観点に立った生徒指導、特別支援の観点、未然防止の生徒指導と初期対応）
  - ・ICTの推進と授業観のアップデート（学びのコンパスも意識）
  - ・学校運営への参画の意識（組織的な学校運営とホウレンソウ、支えあえる仲間〔職場〕づくり）

「確かな学び」の現状  
 「主体的・対話的・深い学びのある授業づくり」を推進してきた結果、協働的な学びを通して、主体的に議論・討論に参加する機会が増えるなど、授業改善が進んでいる。一方で、全国値との比較等と参考にすると、より一層推進する必要がある。学習で ICT 機器の使用が必要だと思っている児童が約 95%いる現状に対して、約 5%の子どもが毎日使用しているにとどまっている。週 3 日でも約 33%である現状を鑑み、ICT 機器の使用頻度を上げていくことは次世代を生きていく児童にとっては急務である。

「豊かな心・健やかな体」の現状  
 「学校教育アンケート」では、「あいさつをしている」の肯定的回答率は約 9 割で高い数値である。保護者アンケートの肯定的回答と開きがあり課題が残っている。「自分に良いところがある」の肯定的回答率が約 79%である。自尊感情を高める集団作りや、自分の生き方を意識させるような取り組みにより、さらに向上していきたい。体育大会を通して、体を動かす喜びや集団で作り上げる楽しさを味わうことができた。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)					
								自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	基礎基本の定着	生徒用端末を使うなどして、個に応じたきめ細かな指導を充実する。	各教科の基礎・基本の定着に向けて、定着の工夫や振り返りの充実を図る。	実施状況・成果を判断	すくすくウォッチや各クラスの校内テスト、IRT、アンケート、学習観察、実践記録等	年度末	○ 授業後や週末に振り返りを実施することを習慣にして内容理解を行っている。	○	ICTを活用した多様な学習形態を実施。ICT活用が進み、授業の質の向上に寄与している。一部で活用のばらつきが課題として残った。さらなる工夫が必要である。	○	ICTの活用が進んでいる。課題については検討して今後にも期待している。		
			多様な学習形態を工夫し、ICT機器の効果的な活用や教材教具を利用し、学習の定着を図る。	実施状況・成果を判断		年度末	○ ICT機器を使うなど、学習内容を具体的かつ、わかりやすく伝える工夫をしている。	○	ICT活用を通して自らの生き方・目標につながる実践を続けてほしい。				
		子どもに問いかけを行い、自分で考えることを促し、児童自ら課題や問題を探求し、答えを見つけるプロセスを経験させる。	実施状況・成果を判断	年度末		○ 校内研修等で研究成果の共有を図り、改善を図っている。	○	主体的・対話的で深い学びにアプローチするための研修を進め意識が高くなってきている。教師の問いかけにより、児童自ら考え、課題解決に向かう姿勢を育んでいる。一方で、すくすくウォッチやIRTより資料を読み取る力や、思考力において課題がある。	○	タブレットなどを有効に活用している。目指す授業が何かを会議等で話し合われている。どんな子どもを育てたいかを明確にして取り組んでいただけたらと思う。			
	授業改善	主体的に考える力を育成する。 一人ひとりの思考力・判断力・表現力を育成する。	生徒用端末（ICT）の積極的な使用と児童同士や教師との協働的な学びを通して意見交換や協力を促し、深い学びにつなげる。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 授業内で生徒用端末の使用頻度が増え、調べ学習やプレゼン等に活用している。	○	児童同士で作文を共有し、意見交換を行うことで書くことに対する意欲や意識を高まっている。	○	多様な体験活動を通して学ぶことは自尊感情を育む上で大切である。	○	たくさんの体験活動がありがたい。
			自主学習ノートや作文等通じて「書く力」を育成しながら子どもの表現力を高める。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 各学年とも交流活動や体験的活動を取り入れ、協同作業を通して自尊感情を養う。	○	リーダー育成についてさらに推進していく必要がある。	○	リーダー育成は授業の中でも育まれるので主体的・対話的で協働的な学びの取り組みを今以上に進めてほしい。		
			共通に認め合い、支えあえる子どもの育成。 様々な感動体験を経験する中で自尊感情を高め自信を持てる子どもの育成	人権尊重と特別支援の観点に立ち、すべての教育活動の中で豊かな人権感覚を育てる取り組みを実践する。 仕掛けのある活動を通じて集団作りとリーダーの育成をすすめ、未然防止の生徒指導の実践を行う。特にいじめのない学校づくりに取り組む。 行事や学級活動で、個々の活動実践を推奨し、その過程を支援・援助して自己肯定感や達成感を味わい、自尊感情を醸成する。		実施状況・成果を判断	年度末	○ 発達段階に応じて個人やグループで楽しめる運動メニューを取り入れ、運動への意欲を高めている。	◎	学校アンケートで「体育は好きだ」が92%で他教科より高い数値を示している。4～6年生のIRT調査においても高い数値を出しており、体育活動を通して健康増進に寄与している。	◎	コロナ明けで子どもの運動能力低下が心配される中、素晴らしい結果を示しています。心身ともバランスよく育ててくれている。	
健やかな体	子ども自らが基本的な生活習慣を確立し、健康増進・体力を高める。	保健指導・食育を通して健康の大切さに気づかせ、家庭と連携を図り基本的な生活習慣を身につけさせる。	実施状況・成果を判断	年度末	○ 保健だよりや食育授業、家庭科を通して健康への気づきを促している。	○		○		○			
		開かれた学校づくり	学校HP・学校だより等を通して家庭・地域への情報発信を行う。	学校協議会を年間3回実施	アンケート、実践記録等	年度末	○ 行事や活動の様子を写真で随時更新したり、学校だよりを通して活動報告を行っている。	○	HP、学校だよりを活用し、滞りなく情報発信を実施した。「不易と流行」を念頭により良い環境づくりに向けた取り組みを検討し、新たなアプローチで前向きに改善を進める。	○	学校だよりが写真も豊富で校長先生の思いがたくさん詰まっており、読みごたえがありとても好きである。		
独自の課題	新たな学校	新たな学校群・学校に向けての準備	★学校群を見据え、小中連携の推進、特に教員間の連携を進める。Society5.0を見据えた効果的な学び方・働き方へのチャレンジ	実施状況・成果を判断	実践報告、アンケート等	年度末	○ 小中で夏季合同研修や6年生による中学校体験を行うなど、交流を行っている。	△		○	学校だよりで保護者と情報共有している。		

**校長より (年度末)**  
 本年度は、チャレンジなわとび、縦割り活動、駆け足タイム、大縄記録会、ウォークラリー等を通して児童の体力向上に取り組んだ。児童も意欲的に参加し、継続的な成長が見られた。また、ICTの活用が大幅に進み、授業改善に効果を発揮した。学校全体・学年・クラスの活動を通して、子ども主体の活動を増やし、リーダーシップを育み、エンカウンター機会の増やすことでいじめの未然防止につなげていくことが大切である。児童が主体的に学び、試行錯誤をしながら成長できる環境づくりを進めていきたい。

**学校関係者評価者から (年度末)**  
 身を粉にしながら子どもたちのために頑張ってくれている。休めるときは休養を取ってほしい。また、新しいことにもチャレンジして熱心に取り組まれていると感じる。体力向上に取り組んでいることが授業にも前向きに取り組むことにつながっているのだと思う。